

研究協力をお願い

昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へご連絡ください。

1. 課題名			
人工知能を用いた大腸腫瘍血管に関する検討			
2. 研究責任者	所属	職名	氏名
	昭和大学横浜市北部病院 消化器センター	助教	武田 健一
3. 研究の概要・計画			
<p>研究背景：大腸がん死亡数は年々増加傾向にあり、内視鏡検査による病変の早期発見、早期治療の重要性が高まっています。内視鏡による大腸病変の診断にあつては、色素拡大観察やnarrow band imaging (NBI) が診断有用性を発揮しており、非腫瘍と腫瘍の鑑別や、腫瘍性病変の深達度診断が行われています。ただし、腫瘍血管の評価にあつては、多数存在する腫瘍血管のすべてを評価することは難しく、一方で、一部を抽出して評価するのでは不偏性が損なわれることから、個々の血管に対する詳細な検討が難しい状況がありました。そこで、今回、生体内で500倍までの超拡大観察が可能であるEndocytoscopy (EC) にNBIを併用することで取得されたEC-NBI画像に対し、人工知能を用いて病変の血管を評価することにより、大腸病変における、組織型や深達度ごとの特徴について検討を行うことを計画しました。</p> <p>調査対象期間：2016年01月01日～2017年08月31日</p> <p>調査対象情報：大腸病変の内視鏡画像、病理検査所見ならびに患者背景</p> <p>調査項目：大腸病変に関する情報（病変の局在、サイズ、形態、内視鏡画像、治療法、病理診断など） 患者背景（年齢、性別、内服薬、既往歴、併存疾患など）</p> <p>研究計画：超拡大内視鏡による観察後に病変に対して切除加療もしくは生検を実施する。病理診断医による診断が確定されたのち、病理所見と内視鏡画像を比較検討することで、組織型や腫瘍の深達度ごとに血管像の特徴について解析を行う。なお、ECは当院の他臨床研究ですでに使用されており、現時点までに、ECによる有害事象は報告されていない。また、本研究では内視鏡画像と治療・検査目的に切除あるいは生検された病変を対象とすることから、日常診療範囲内で実施可能な研究であり、被検者に対して過大な侵襲をもたらすものではないと考えられる。</p>			

4. 研究実施期間

2017年02月01日～2017年08月31日

5. 問い合わせ先

所属：昭和大学横浜市北部病院 消化器センター 職名：助教 氏名：武田 健一

住所：224-8503 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話番号：045-949-7000

なお、個人情報の保護のため、診療情報はすべて個人を識別できる情報（氏名、住所、生年月日、電話番号など）を削除し独自の記号を付して取り扱い、研究成果を学会や論文で発表する際も個人情報を出すことはありません。